

洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～
令和2年9月11日(金)第17号

今週の四字熟語

東奔西走(トウホンセイソウ)

目的があって東から西、西から東にあら
こら走りまわるほどのいそがしい様子

☆ チームワーク ☆

9月25日(金)は学校祭です(予備日 同30日(水))。今年度は、コロナ禍のため、文化祭と体育祭の要素をそれぞれミックスするという、例年とは大きく形を変えたものになりました。

2、3年生は、昨年度の先輩の取組を観て、あんなことがしたい、こんな風にしたい・・・ということがあったと思います。また1年生は、高校の文化祭はどんものなのかなというワクワクした気持ちだったのではないのでしょうか。そう考えると、皆さんのあらゆる活躍の場面をことごとく邪魔をしているコロナに、改めて怒りを覚えます。

しかし文化委員や体育委員の皆さんが、限られた条件の中で少しでも盛り上がる取組とするために出し合ってくれたアイデアによって、形づくられたと聞いています。本番はたった一日ですが、そこに向けての準備期間も含めてすべて学校祭です。皆さんには、クラスあるいは団の結束を固めみんながハッピーになれる「学校祭期間」を作り上げてほしいと願っています。

私の話になって申し訳ないのですが、少し紙面を借ります。

私が洛東生のときの文化祭は、1年；展示発表 2年3年は演劇をしました。1年のときは第15号でお話した、元暴走族の友人らと「大学の応援団(当時流行っていたので)」について調査研究を進めるため、実際に、京都大学や同志社大学の応援団のオニイサン達にインタビューして回ったことを覚えています(結構怖かったです)。2年のときは演劇で、これも当時流行っていた「愛と誠」という漫画をパロディにしたものを、私が「脚本・監督・主演」として進めました。3年のときはクラスの演劇にはチョイ役で出ただけで、主に有志のバンド活動に明け暮れていました。皆さんは知らないと思いますがこれまた当時流行っていたハードロックの「ディープパープル」や「KISS」をコピーし、ボーカルやキーボードとして舞台上で暴れていました。今となっては、恥ずかしさとほろ苦さを伴う良い思い出です。

ところで、先ほど、「結束を固め」と言いましたが、こういったクラス活動などを進めるとき大切なのは「結束力」、少し言い換えれば「チームワーク」です。準備をするしよっぱなからチームワークがあるに越したことはありませんが、なかなか難しいでしょう。準備を進めていく道中で、少しずつ一歩ずつチームワークが高まり、終わるころには最高のクラスになっていた・・・となると結構みんながハッピーになれると思いますし、そういったクラスはきっと学校祭が終わってからの平凡な毎日が輝きを増すことにつながるでしょう。

しかし、ここで間違えてはいけないのはチームワークの意味です。チームワークとはお互いにカバーしあうとか、できない人を誰かが助けてあげる・・・ということにとらえられがちですが、そうではありません。チームワークは「一人ひとりが自分の責任を果たしきる」ことから始まります。つまり初めからやる気のない人や責任から逃げようとする人、自分の気分が乗らないことを他人や取組のせいにする人、はたまた、何もしないのに文句だけは一人前に言う人・・・などがいる集団において、チームワークなど百年経ってもできません。どうか皆さん、一人ひとりが、クラスにおいて、団において、またはその瞬間において、自分の果たすべき役割・責任は何なのか・・・を明確に感じ取り、やり切ってほしいと思います。そういった集団であれば、おのずとお互い助け合ったりカバーしあったり、できない人を誰かが助けたりするチームとなっていくことでしょう。なぜなら本気で取り組んでいる人には、人の立場に立って考えることができる視野が芽生えるからです。

さあ 皆さん！たった一日の学校祭が最高のものになるよう、最高の準備を始めましょう！皆さんに「感動をもらえること」を予約します。